

☆岩国基地における機種更新等について

中国四国防衛局から、１．第５空母航空団の機種更新と、２．在日米軍施設・区域における戦闘機にかかる態勢の更新について説明があり、その後、議員から質疑がありましたのでご報告いたします。

１．第５空母航空団の機種更新について

日本に配備されている空母ロナルド・レーガンが空母ジョージ・ワシントンへ変更されることに伴い、艦載機部隊である第５空母航空団の空母艦載機の４つの戦闘攻撃飛行隊のうち１個飛行隊について、F/A-18スーパーホーネットの飛行隊からF-35Cの飛行隊に、C-2輸送機の飛行隊からCMV-22オスプレイの飛行隊に更新されます。

機種更新の対象となる各々の飛行隊の機数は若干増加するものの、空母艦載機全体の機数は大きな変更が生じないように調整されます。

騒音については、飛行状況、測定機材、気象条件等に左右されますが、公表されている情報によりますと、F-35Cが離陸するときは、F/A-18スーパーホーネットと同程度、着陸時は、１１デシベル程度小さくなります。

岩国飛行場に所在する航空部隊の任務や平素の活動、飛行経路に変更はなく、新規の施設整備計画也没有ありません。

安全性については、F-35Cは米国政府が安全性や信頼性を確認しています。また、CMV-22オスプレイは、MV-22オスプレイ、CV-22オスプレイと機体構造、基本性能が同一ですが、米国政府が開発段階から安全性、信頼性を確認しており、米軍オスプレイの日本配備に先立ち、日本政府も独自に安全性を確認しています。

２．在日米軍施設区域における戦闘機にかかる態勢の更新について

三沢飛行場、嘉手納飛行場（米空軍）と岩国飛行場（米海兵隊）について、今後数年かけて戦闘機にかかる態勢を更新します。

岩国飛行場の更新計画として、常駐部隊F-35Bが若干減少し、ローテーション部隊F/A-18が、F-35Bに更新されます。

岩国飛行場での、部隊の任務や飛行経路に変更はありません。

主な質疑内容

Q オスプレイの安全性についての判断は、屋久島での事故前からあったものなのか。それとも、その後事故を踏まえて検証した判断か？

A 米国政府が開発段階で安全性、信頼性を確認しています。

また、米軍が日本に配備するときに先立ち、日本政府としても独自に安全性を確認しています。

日本においても、陸上自衛隊でオスプレイを配備しており、配備の際、独自に情報収集をし、安全性の確認をしています。

屋久島での事故後についても、米側のオスプレイ専門の部署と技術的な情報のやりとりを行い、今年8月の事故調査報告書では、各種の安全対策を取ることで、事故は未然に防げると理解しています。

**Q 米側に対して安全を期すというのは具体的にどのようなことを求めるのか？
また、飛行ルートを含めて具体的にどのような安全対策を求めているのか？**

A 安全性は、米国政府に、あらゆるレベルで安全性について確認をしています。今後、最大限の安全対策をとるよう、日米で協力して安全対策に万全を期するというスタンスです。

岩国日米協議会の遵守事項（地元に対するあらゆる努力、配慮を引き続き維持する）を、米側もしっかりと守っていくと聞いています。

飛行ルートについては、基本的な運用の変更はないと聞いており、改めて日本政府から何らかの形で飛行ルートの変更をお願いすることは現時点では考えていません。

Q オスプレイについて、現在2つの飛行ルートがあるようだが、これが正規のルートと認識してよいか？

A 全国的に飛行ルートがここだということは、米軍の運用にかかわるため、対外的に答えることは困難です。

いずれにしても一番大事なことは、常日頃から、周辺住民への影響が極力最小限に抑えられるよう、中国四国防衛局だけでなく、防衛省からも米側に求めていることが重要と考えています。